

**この作品はフィクションです。  
実在の人物・団体・事件とは一切関係ありません。**

**作品の無断転載・複製・販売・加工・AI学習を  
禁止します**

**This work is fiction.  
It has no relation to real persons, organizations, or events.**

**Unauthorized reproduction, duplication, sale, alteration,  
and AI training of this work are prohibited**

ボクは今  
走馬灯を見ていた

まだ子供だった頃の  
記憶を見ていた……

その時のボクは  
ひどい子供だった  
……

誰かを  
魔法を使って  
いじめていた  
……

目の前の子は  
泣きながら  
逃げている

園子は泣きながら  
なんどもボクに  
止めるよう訴えている

だけどその子の  
顔がぼやけてて  
はつきり思い出せない

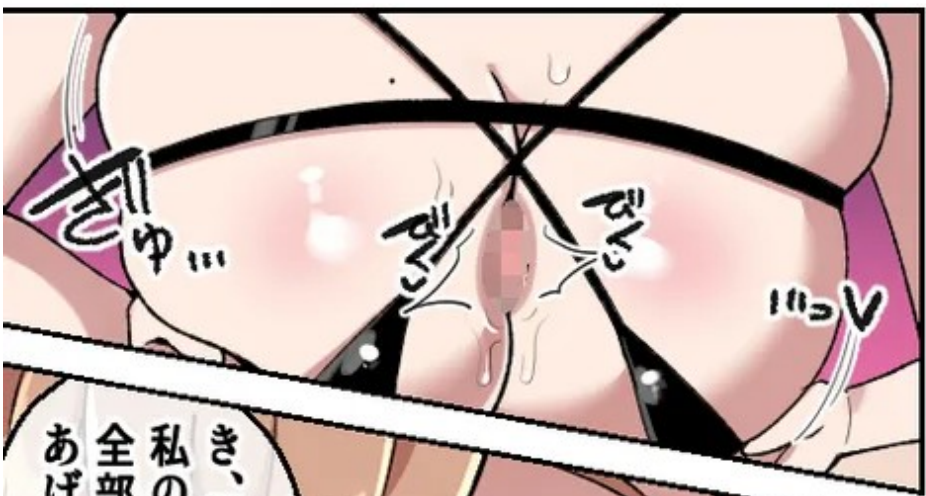
何故こんな後味の悪い  
過去の記憶を見ているのか  
それは……

パイズリ拷問を  
うけているからだ



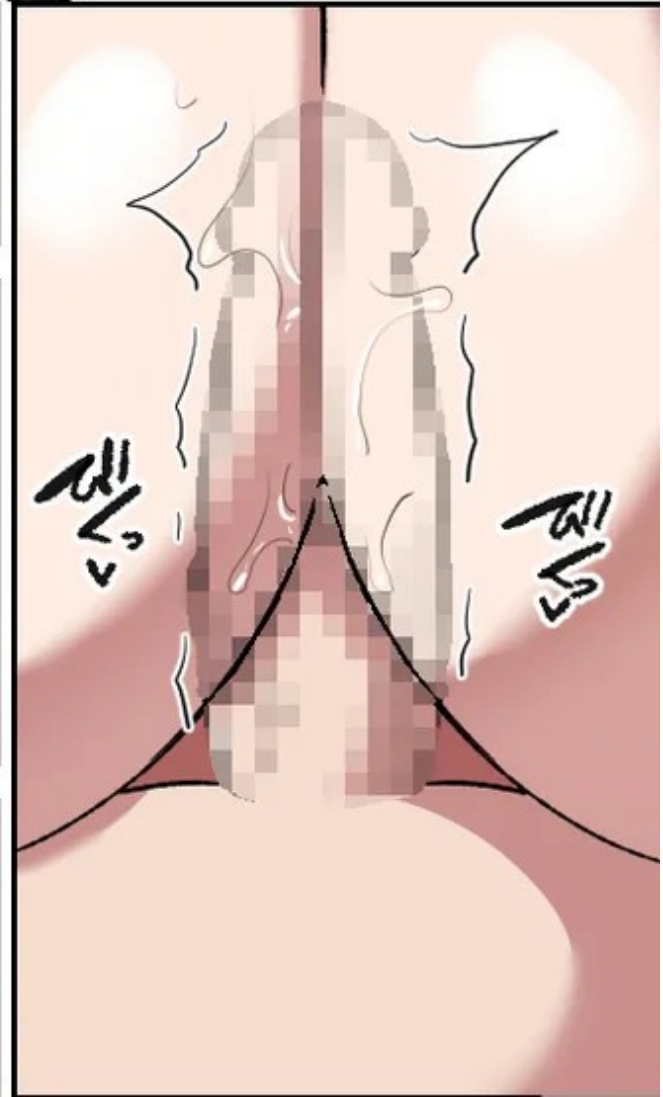
やめろ!!  
やめてくれ!!

これ以上は  
射精る!!  
また射精る!!



いいいよ  
射精して……

き、君の精子  
私のおっぱいで  
全部受け止めて  
あげるから……♥





僕は名家の  
魔術師家系  
の生まれだ



幼い頃から  
同世代の魔法使い  
よりも魔力が高く

おー!



魔術の技術も  
群を抜いて高かった  
……

ボクの住む世界は  
魔王軍による  
侵略が始まっていた

ゴオオオ……

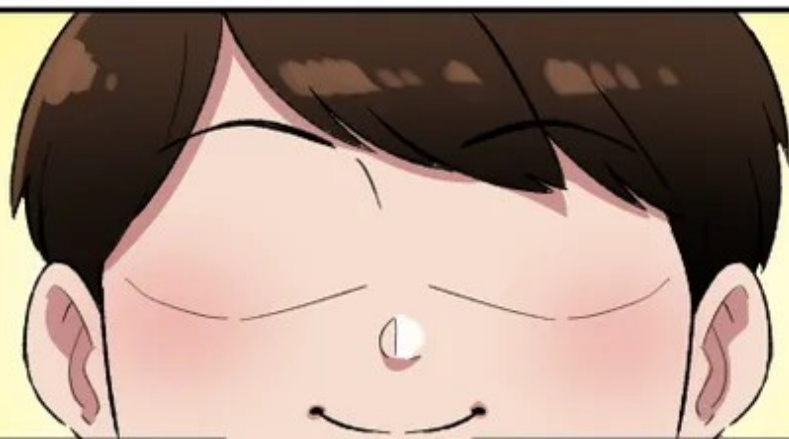


その魔王を討伐する  
ための勇者パーティーに  
魔術師としてボクは  
指名を受け加入した



勇者をはじめ  
精鋭揃いのパーティー  
だった

魔王を討伐し  
偉大なる魔術師として  
歴史に名を残す……



ボクはその時  
そう思っていた……

だけど  
現実是非情  
だった……

オオ オオオオ

勇者パーティーは  
たった1人の魔物……  
サキユバスに全滅させ  
られた……

勇者……

僧侶!!  
賢者……!!

う……  
うそだ……っ

みんな……  
やられちゃう  
なんて……

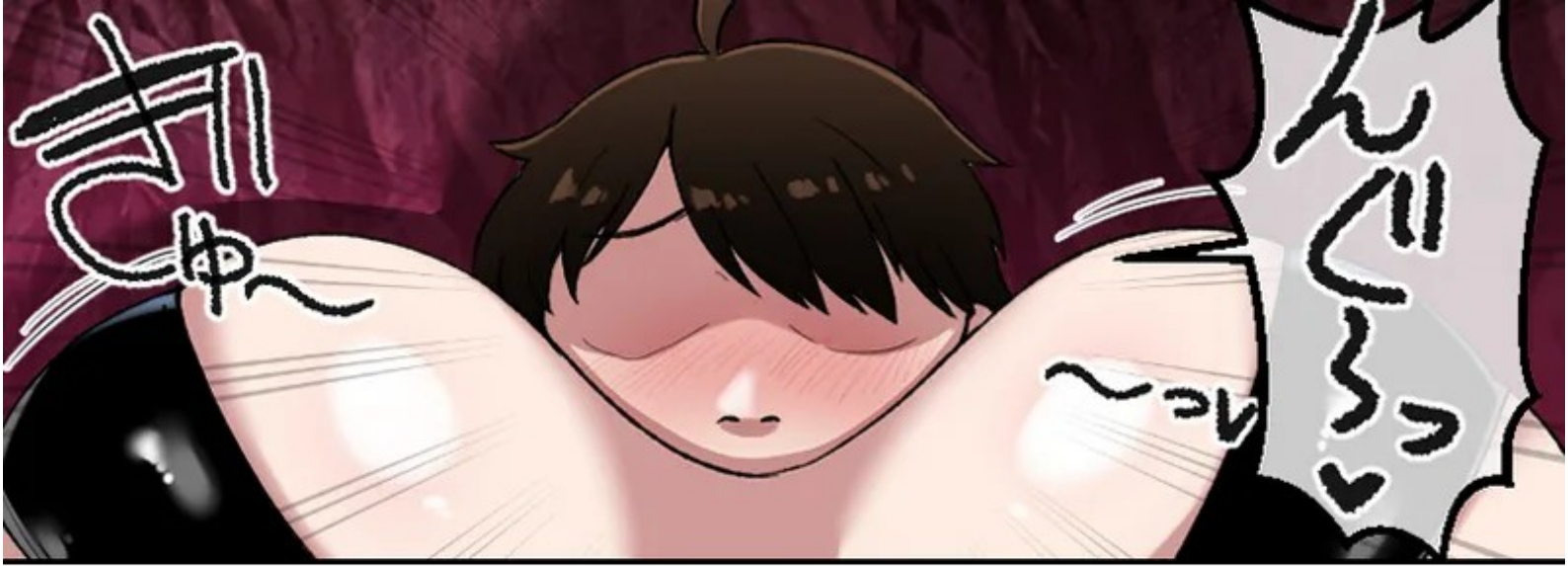
こ……っ  
殺される……!!

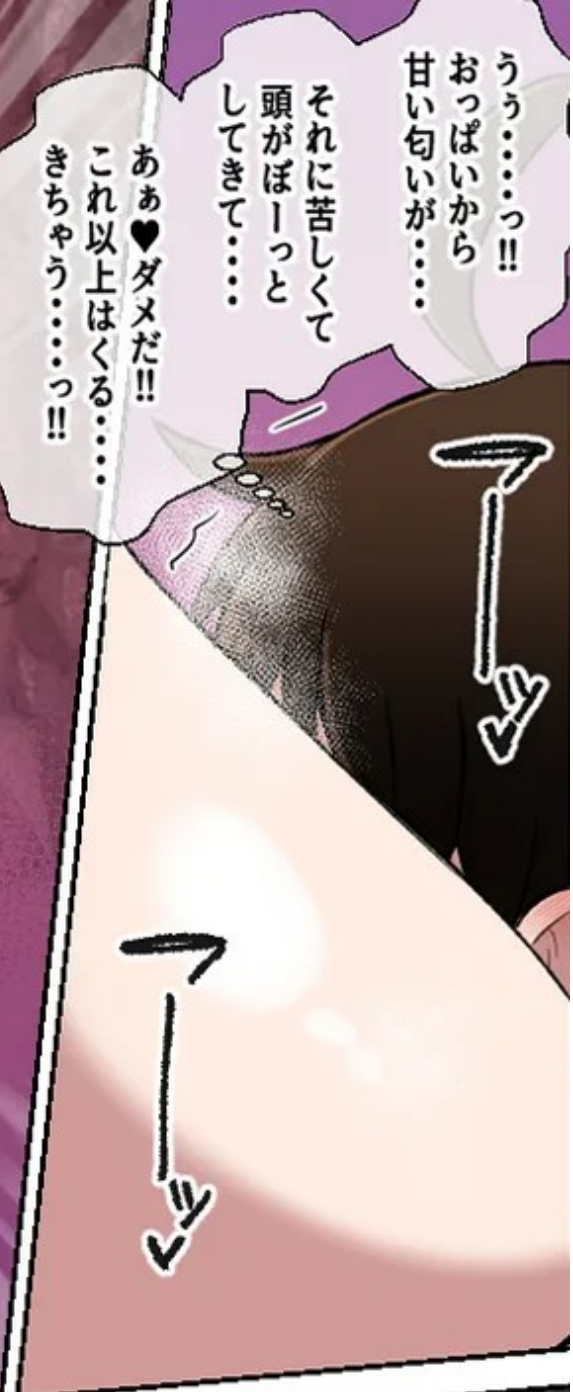
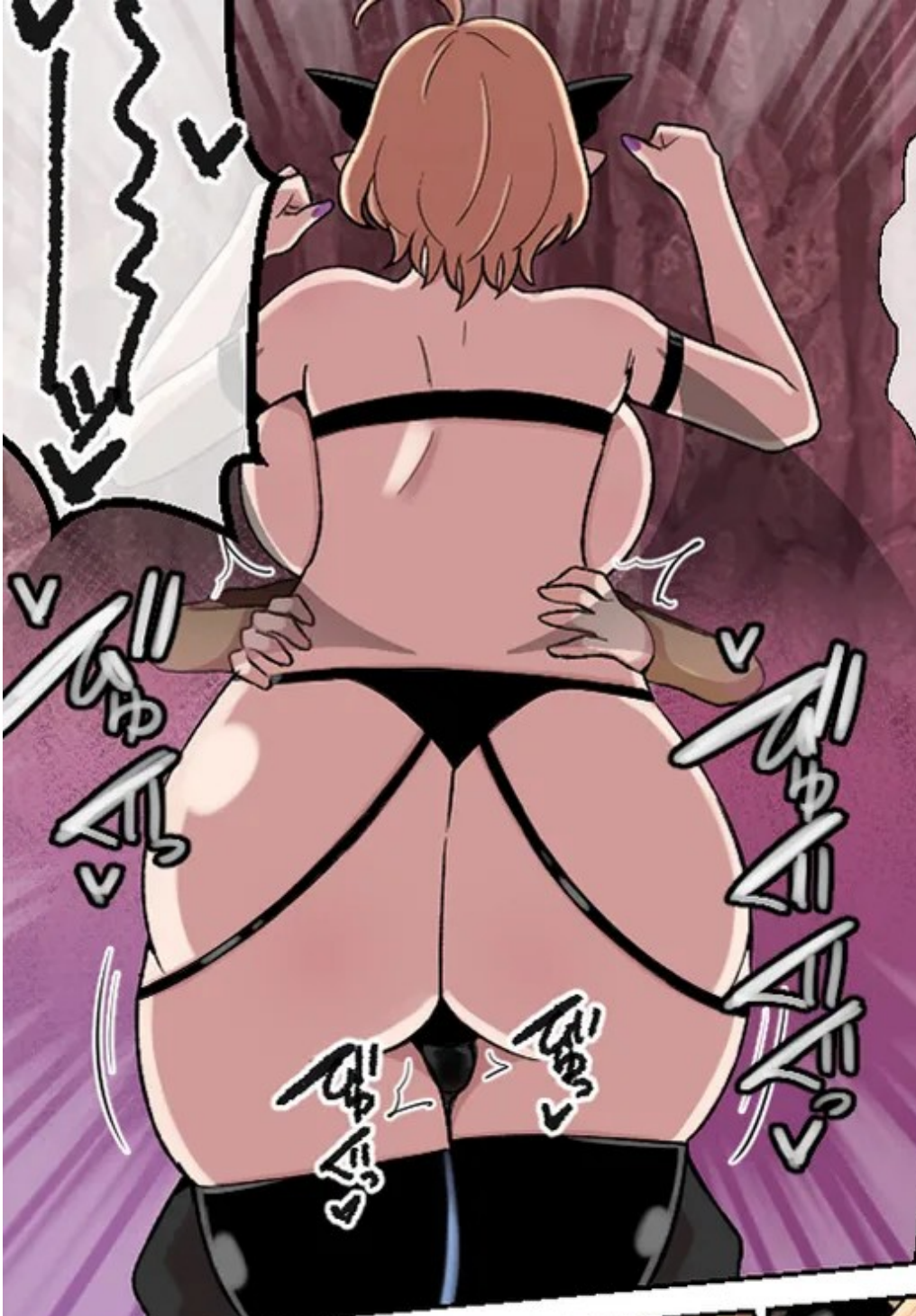
君は……

ぬ私の……  
つれていくから

えっ!?

奴は何故か  
ボクだけを自分の  
住処へと連れ帰った





うう……っ!!  
おっぱいから  
甘い匂いが……

それに苦しくて  
頭がぼーっと  
してきて……

ああ♥ダメだ!!  
これ以上はくる……  
きちゃう……っ!!



あ、あれ……?  
射精しちゃった……?

も、もしかして  
私のおっぱいに  
顔潰されて興奮  
しちゃったの  
かな……?

びくびく  
っ……  
凄いな……

アッ  
アッ



あ……  
だ、大丈夫？

ぐあ……っ



ごめんね……  
ま、まさか君がこんなに  
早く射精するとは  
思わなくて……

君のこと……  
昔はもっと怖い  
って印象が強かった  
から……

私に……  
ずっと酷いこと  
してきたのに……

昔……？だって……？

一体何の事だ……？！



覚えてないんだね……

……ひどいなあ

すっ



えっ!? あっ!?  
ふ……服が!?

な、なんだこれ!?  
どうなってる!?



キヤッ

あ……ああ!!  
か、身体が勝手に  
浮いて……!!?

身体がいう事を  
聞かない……!!  
やめろ!! やめろーっ!!



君の身体は今私の力で  
操って身体を自由を  
奪ってるから……

て、抵抗しても  
意味ないよ……?!

だ……大丈夫  
痛いことはしない  
から……  
その代わり……



ふっ

私のおっぱいで君を  
たくさん気持ち良くして……  
気持ちよくしすぎて……

君は少しずつ  
おかしくなっていくだけ  
だから……ね……

は

は

は

気持ちよくなるわけ  
だから……  
痛くはないよね……？

いっぱい精子……  
射精していいから  
ね……♡

は

は

ほら……  
おっぱいこっやって  
こねくり回したら  
……

あんっ♡あんっ♡て  
声出して気持ちよさ  
そうだね……♡

は

は

あ

あ



あ……  
射精た……♥



あ……先っぽから  
すごい音してきた……

もしかして  
もう限界なのかな……？



ああっ!!

また射精る!!  
射精ちやう

あ……!!



おお〜……  
いやだ……  
止まんない  
……っ♡

いっぱい射精てる♡  
どくどくって凄い……♡  
おっぱいでする  
だけでこんなに射精る  
んだね……♡

ズン  
ズン  
ズン



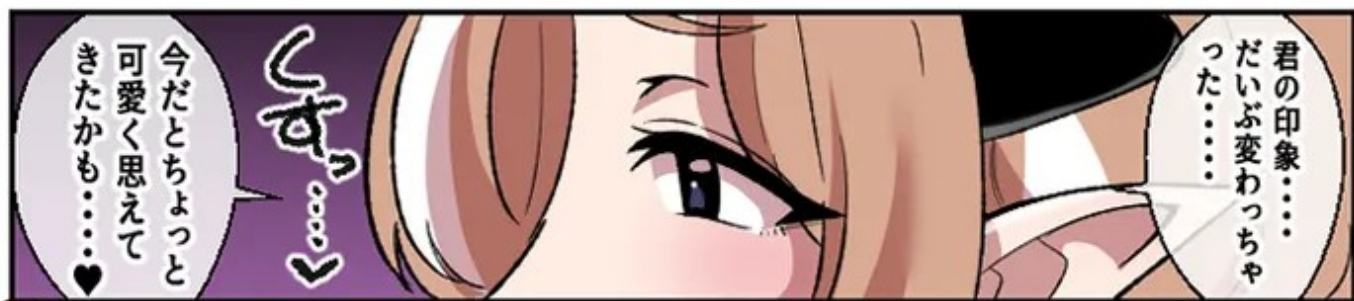
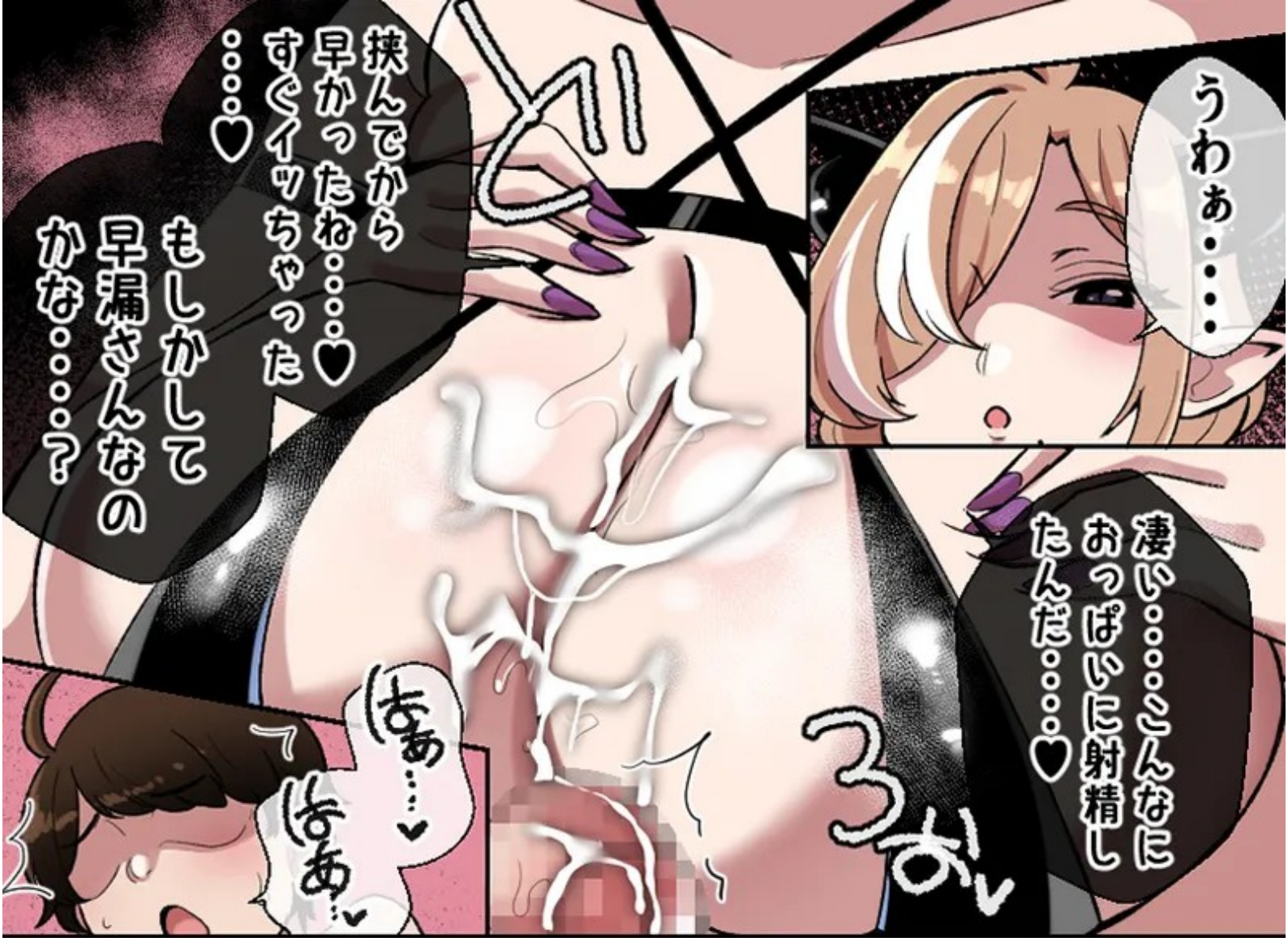
おっぱい  
ズン  
ズン  
ズン  
んっ♡

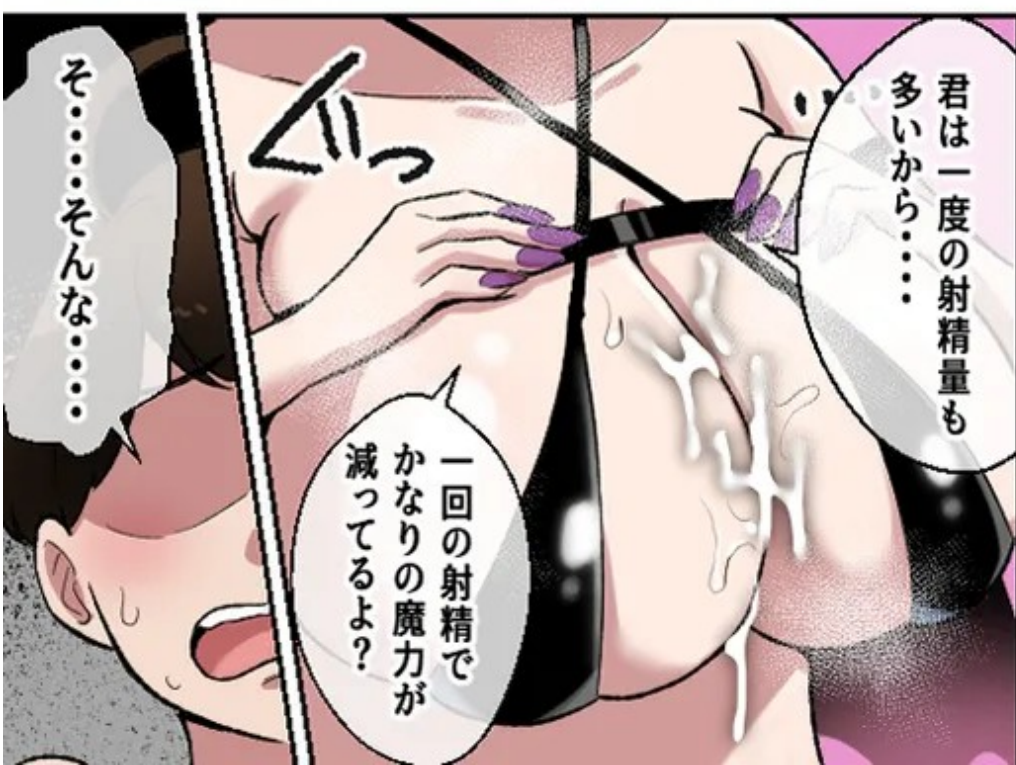
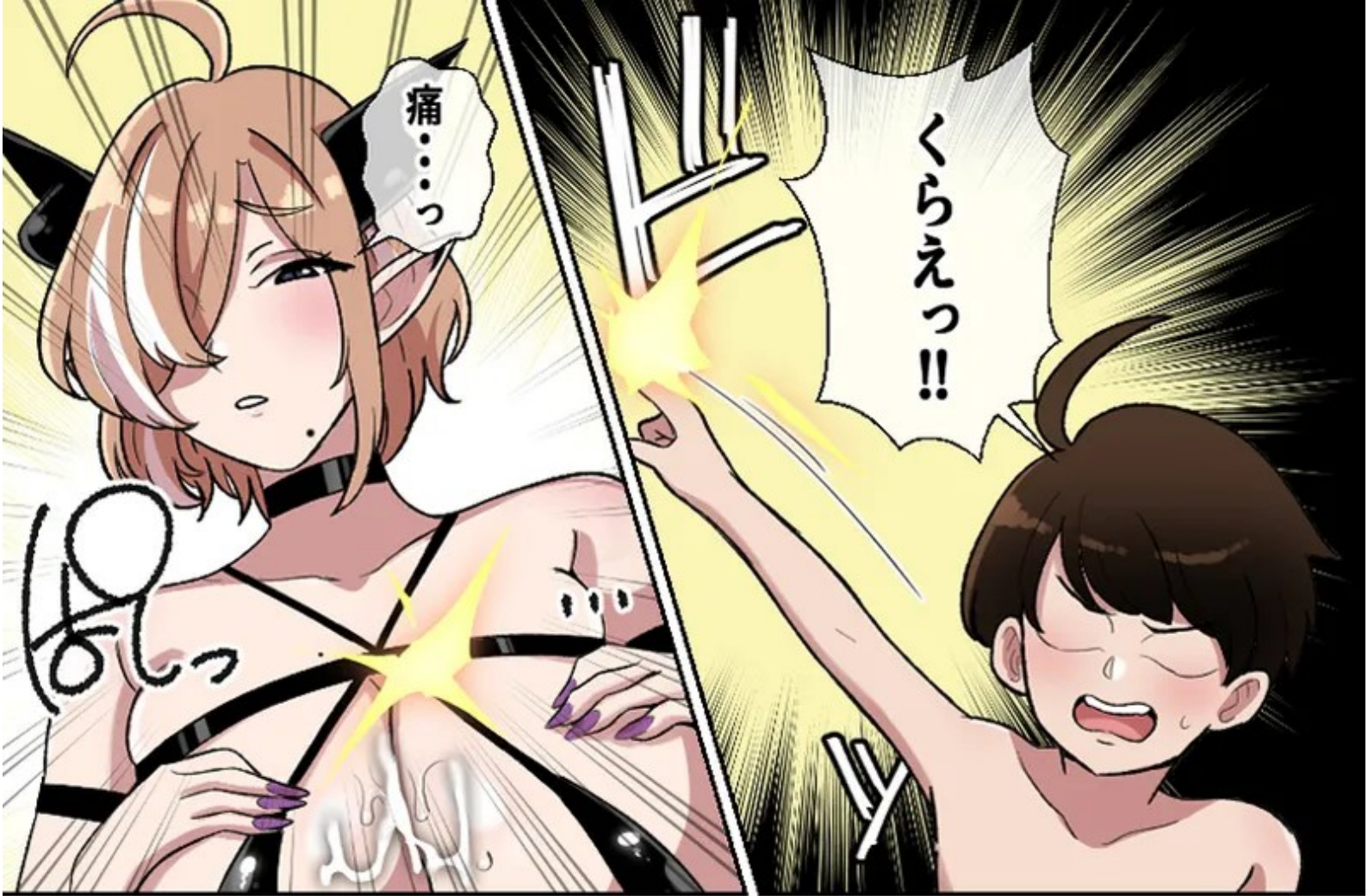


ズン  
ズン  
ズン  
うう〜っ♡



あっ♡あっ♡  
引っこ抜かれる……♡  
おちんちん  
おっぱいに  
引っこ抜かれ  
る……っ♡





君は元々魔力が多いから搾り取りがいがああるよ♡

全部……搾り取るつもりだから……覚悟してね……♡



持ってかれる!! コイツ本気で搾り取るつもりだ……っ!!

こ……の!! 離れろ……!!



ああ……!! すわられるう……っ!!

ぼ、ボクの魔力が……っ!!

離れろ……!!!

LOVV



本気で吸い出そうと  
するな〜っ♡♡♡

あっ♡あっ♡あ〜っ♡  
やめろ!!やめて〜っ♡♡♡

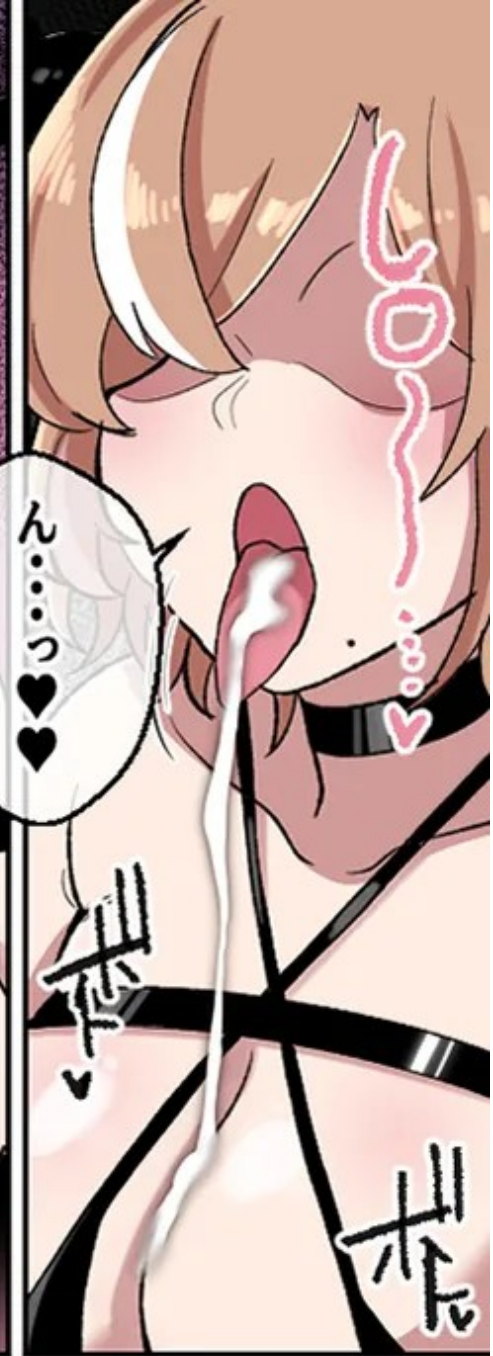


吸われるっ♡♡♡  
魔力根こそぎ  
もっていかれる  
〜っ♡



今度は君の天然精液  
ローションをかけた  
おっぱいで……

もっといっぱい  
搾り出してあげる  
ね……♥



ん……っ♥♥

しゅ……っ♥♥



ん……っ♥♥



あっ♥あっ♥  
おっぱいに  
入ってくっ♥

あっ♥や、やめて♥  
さっきイッたばかり  
……♥



あつ。。。♡勝手に腰が  
動いちゃってるね。。。♡

おっほいに飲み込まれた  
瞬間おちんちんが気持ちよさ  
だけ求めてずっぽ♡ずっぽ  
って突いてくる。。。♡

はあっ♡はあっ♡  
いやだ。。。♡いやなのに♡

なんで腰勝手に  
動くの。。。♡

おっほい

おっほい

おっほい

おっほい

おっほい



おっほいおっほい  
おっほいおっほい  
嬉し。。。♡

もっと好きになって  
おっほい突いで  
良いからね。。。♡

♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡

おっほい

おっほい

おっほい

あつ♡あつ♡  
はっ♡はっ♡





気を失ったボクは  
またさつきと同じ  
過去の記憶を見ていた

後味の悪い  
ボクの記憶……

あはは!!なんだ!!  
魔物なんて大した  
ことないんだ!!

ボクの魔法で  
お前なんて  
やっつけてやる!!

やめて……  
やめてよお……

ひどい……  
ひどいよお……

記憶の中の  
泣いてる子は  
まだぼやけてて  
映っていた……

「魔物」って  
言っていたな……  
あの魔物の子は  
誰なんだろう……?

うう……うっ……

あ……気が  
ついたね……

は……  
は……

うん……  
やっぱり一度に  
射精しすぎちゃった  
みたいだね……



大丈夫？

!?



えっ!? な、何っ!?

2人になって

……!?

えっ!? えっ!?!  
何で……っ!?!



大量の魔力を消費するから中々できない技なんだ……

もう一人の自分を作り出す技なんだけど……

でも君の魔力を吸ってようやくできるようになったんだよ♥



びびっくりさせちゃったね……

急に私が……増えてるんだもん……

これは君の魔力のおかげなんだよ……



や、やっぱり君の魔力は凄いね……量も質も……想像以上……♥

名家の出身だっけ？自慢するだけのことはあるよ……

これだけ力があるからいたずらに使用したくなるんだ……♥悪い子……♥



でも今は君の魔力……もっとほしい♥  
今度は2人の私でいっぱい気持ちよくなるから……♥

おちんちん気持ちよくなって精子も魔力もびゅっ♥びゅっ♥てしちやおう……♥

ほら……こうして私たちの  
おつきいおっぱいに同時に  
挟まれて……

もう何も考え  
られないくらい  
びゅっってしょ？

大丈夫……君は気持ちいい  
事だけを考えて……？

あーっ……♡

あーっ……♡

ほら……2人のおっぱいに  
挟まれちゃう……♡  
ぎゅっってされちゃう……♡

こ、怖がらないで……♡  
痛くはしないから……♡

ほら……楽にして  
受け入れるだけで  
いいからね……？

あーっ……♡

あーっ……♡

わ……♡  
すこい……腰が  
浮いちゃってる……♡

強すぎる……？  
ごめんね……？

でもこれくらい  
しないと君から  
根こそぎ搾り取れ  
ないから……♡

ず……ずるい!!  
2人でギューッて  
するの……!!  
ずるい……!!

あーっ……♡

あーっ……♡

あーっ……♡



イクツ♡イクツ♡イクツ♡イクツ♡

あ……♡  
凄い射精てる……♡

もう少し  
我慢してほしかった  
んだけどな……

やっぱり早漏さん  
なのかな……？

イクツ♡イクツ♡イクツ♡

んっ♡  
どぶどぶって  
勢い止まらないね♡

ダメだ!!  
ダメダメダメ!!  
この調子で搾り  
取られたら……

は♡  
は♡  
ボクの魔力ホントに  
無くなっちゃう!!

お……お前達……  
や、やめろ……!!

イクツ♡イクツ♡イクツ♡

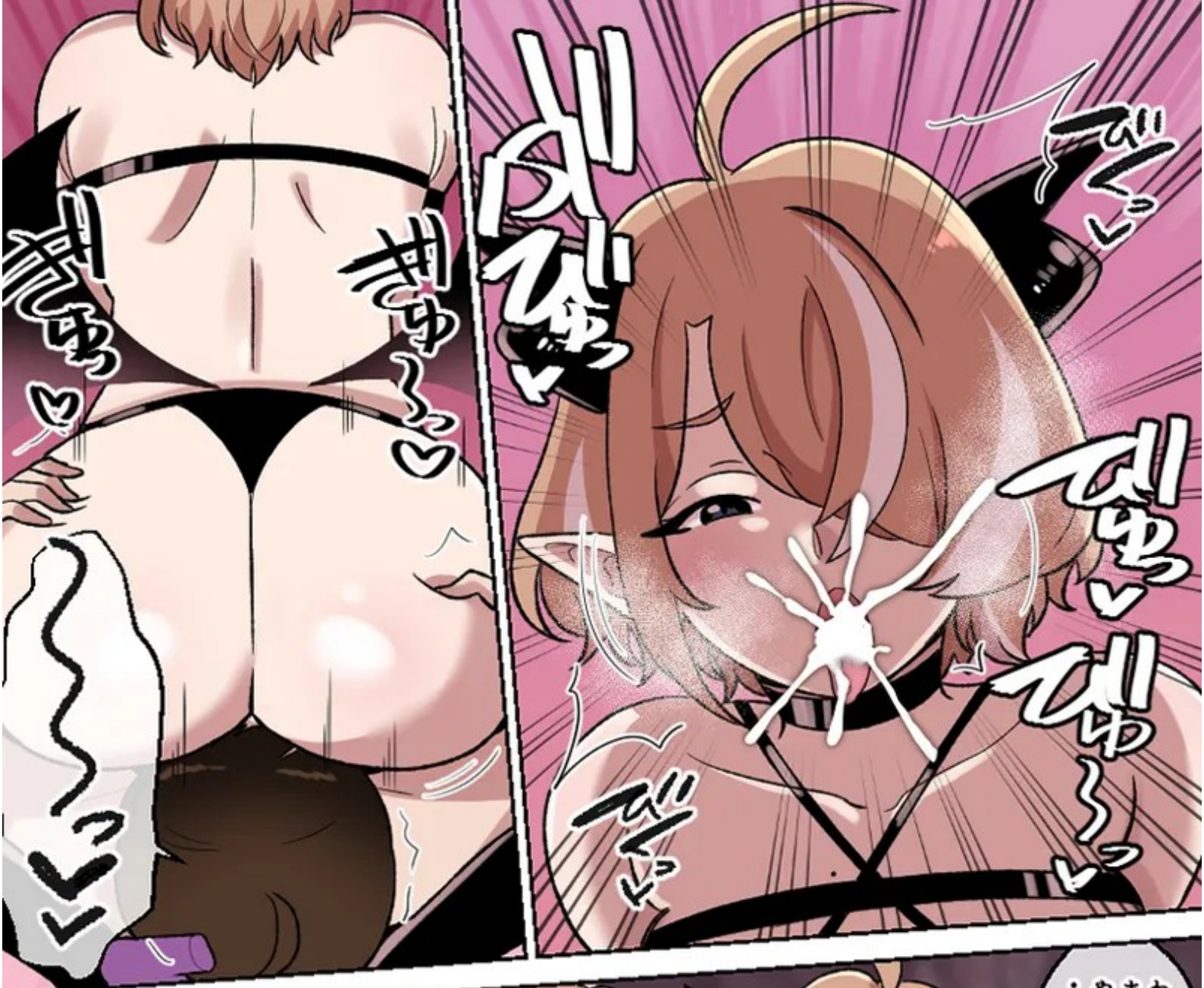
おっぱいの間  
君の精液で  
泉みたいにな  
ってる……♡

は♡  
は♡  
は♡

えっ!?







わんわん

わんわん  
わんわん

わんわん

2人に増えたことによりさらに強烈な搾精にボクは耐えられなかった……

ふっふっ

薄れゆく意識の中再びボクは過去のことを思い出していた……

ん……っ♡  
喉に絡みつくくらいすっごく濃い……っ♡

わあ……  
また射精だね……♡  
やっぱり凄い量だよ……♡  
でももう少し我慢してくれと嬉しいんだけど……

ふっふ

また同じ過去の  
記憶だった……

だけど今までより  
映像が鮮明になって  
いた……

ぼやけていた景色も  
はっきりと映し出されて

目の前で泣いている子の  
顔もくっきり見えるように  
なる

そうだ……思い出した……

昔ボクがいじめてた魔物の子は……

今まさに僕を搾精している  
サキユバス……

その幼い時の  
姿だった……

思い出した……!!  
お前はあの時の  
魔物だったのか……!!

ま、まさか  
サキユバスだった  
なんて……!!

だからボクだけを  
連れ去ったのか  
……!!

ボクに復讐  
するため……!!

やっと思い出して  
くれたんだね……  
そうだよ……

私の名前は「ミルフィン」  
昔君にいじめられてた  
サキユバスだよ……

あの時はまだ力が覚醒  
してなかったから  
君から見たら弱い魔物  
だったかもね……

成長してサキユバスに覚醒  
してからはたくさんの男の人から  
精子と魔力を奪ったから……

今は君なんかよりも  
高い魔力を身に着けてい  
るんだよ……♡

昔は怖い存在だと  
思っていたけど……  
今だと全然だね……

すぐに射精しちゃう  
ところが……ちよつと  
可愛く思えてきた

でもね……これは  
復讐じゃないんだよ？  
君の魔力はずっと  
ずいっと狙って  
たんだ……

だから絶対私のモノに  
するって思ってたから  
……

むしろ恋焦がれてた  
くらいなんだよ……♡

ミルファイはそう  
独白するとボクに  
さらなる追い打ちを  
かけてきた

どう？  
気持ちいい？  
これ……？

魔力の放出の  
しすぎで抵抗する  
力もボクは既に  
失っていた

上も下も  
おっぱいで  
気持ちよく  
させられてるね

うんうん♡  
♡♡♡♡♡♡♡♡  
まだまだね♡♡♡

彼女はボクの  
尊厳を無視して  
ひたすらに精液と  
魔力を搾り取る



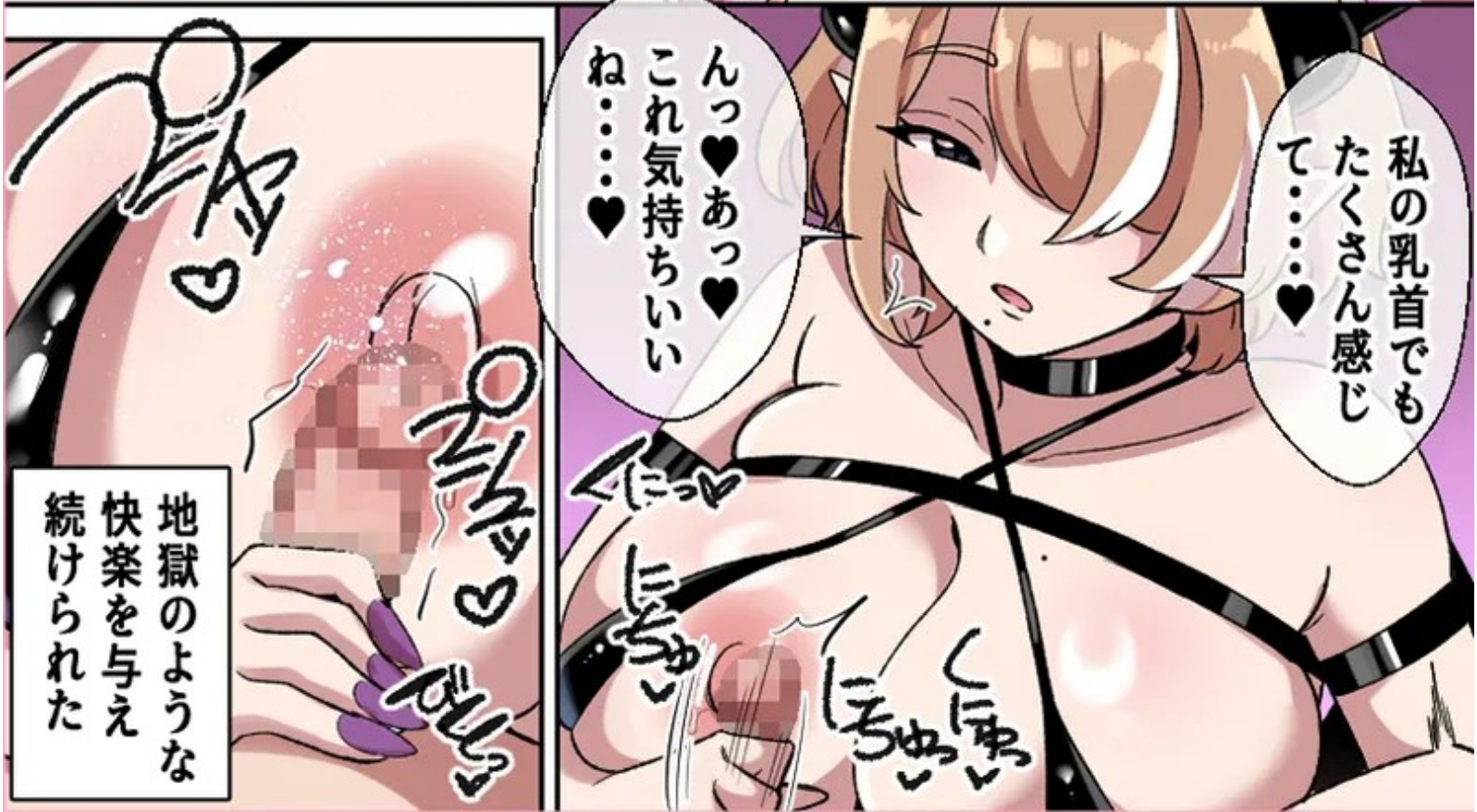
あっつい  
……  
♡

びしょ  
びしょ  
びしょ

びしょ  
びしょ  
びしょ

びしょ  
びしょ

びしょ  
びしょ  
びしょ



私の乳首でも  
たくさん感じ  
て……♡

んっ♡あっ♡  
これ気持ちいい  
ね……♡

あっつい  
あっつい  
あっつい

地獄のような  
快楽を与え  
続けられた



んっ♡

んっ♡

ん……♡  
またガチガチに  
なった……♡



んっ♡  
んっ♡

んっ♡  
んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



んっ♡  
んっ♡

イクッ♡  
またイクッ♡

ボクの身体は  
2人のいいように  
扱われた



んっ♡  
んっ♡  
んっ♡  
んっ♡  
んっ♡  
んっ♡  
奥まで届くくら  
打ちつけなきゃ♡

私が手伝って  
あげるからね

休む暇もなく  
すぐに搾精  
行為が行われる

射精したら  
パイズリ  
射精したら  
パイズリ……

すっぴん音……  
エワチだわ……♡

おっほら  
で息できたら  
……♡

それとも  
もっとう  
されたらかな？



ほーい……  
また射精  
しようわ♡

あっ♡  
もう射精し  
そうだわ♡

自分でも  
もう何度  
射精したか  
わからない



そうそう  
頑張って  
腰振って♡

おっほいと  
いっばいと  
エワチして♡

がんばれ♡  
……♡  
がんばれ♡

ただ言えることは  
ボクの自慢の魔力は  
底をつき始めている  
のは感覚でわかった



んっ♡  
おっぱい美味しい  
……？

だけど、もうボクは  
後戻り出来ないほどの  
快楽を強制されて  
しまっていた……

んっ♡

激し……♡



ちゅ♡ちゅ♡  
ちゅ♡ちゅ♡

ちゅ♡ちゅ♡  
ちゅ♡ちゅ♡

ちゅ♡ちゅ♡  
ちゅ♡ちゅ♡

ちゅ♡ちゅ♡  
ちゅ♡ちゅ♡

ちゅ♡ちゅ♡  
ちゅ♡ちゅ♡

ちゅ♡ちゅ♡  
ちゅ♡ちゅ♡

ちゅ♡ちゅ♡  
ちゅ♡ちゅ♡

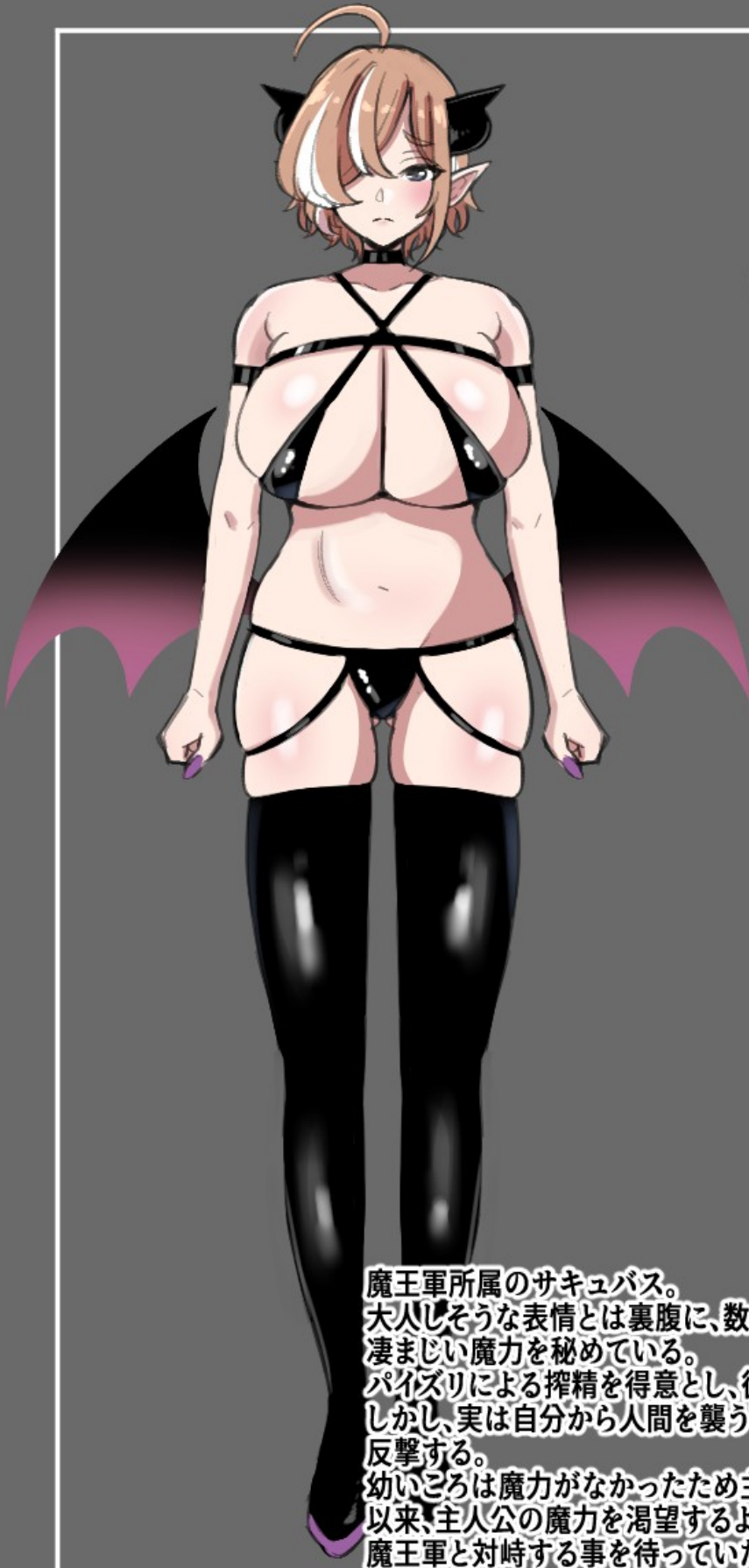
ちゅ♡

ちゅ♡



その後

魔王軍が世界を  
どうしたのかは  
ボクにはもはや  
わからなかった



ミルフィ

身長 187cm  
B/W/H 110(L) 62 98

魔王軍所属のサキュバス。  
大人じょうな表情とは裏腹に、数多くの男の精気と魔力を奪ってきたため  
凄まじい魔力を秘めている。  
パイズリによる搾精を得意とし、彼女のパイズリの餌食になった者は数知れず。  
しかし、実は自分から人間を襲う事はなく、相手に敵意があった場合のみ  
反撃する。  
幼いころは魔力がなかったため主人公からいじめにあっていた過去を持つ。  
以来、主人公の魔力を渴望するようになり主人公が勇者パーティーに入り  
魔王軍と対峙する事を待っていた。

